

(別紙4) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果 (外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人敬英会		
事業所名	グループホーム幸楽の里 【ユニット名:けやき】		
所在地	和歌県橋本市隅田町山内		
自己評価作成日	平成22年04月06日	評価結果市町村受理日	平成22年 6月 7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071000453&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年4月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした中にも季節の行事や、地域の風習などを取り入れめりはりをつけ、楽しいこと、うれしいことをできるだけ多く生活の中で感じてもらい、良かったと思っていただきたいとおもいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然に囲まれ、法人の老人保健施設と同じ敷地内にグループホームの木造の建物がある。格子戸の玄関は温かみを感じられ、リビングを囲むように配置された居室は生活感のある住居らしい雰囲気になっている。各居室内には入居者の私物が持ちこまれ個性が活かされている。位置的に地域住民と触れ合う機会はあまりなく商店街からかなり離れているが、1日に1回は外出できるような意欲のある取り組みで入居者の暮らしをサポートしている。日頃から、入居者が住んでよかったと思えるよう、本人本位の支援を全職員で心がけている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着に基づき理念にもその旨をふまえ、地域と共に支えあうことに重きを置き理念に反映している。	家庭的な雰囲気・残存機能・尊厳ある生活を理念に掲げており、みなで理解し共有できるよう取り組まれており、常に意識できるよう職員トイレにも掲示している。	地域での暮らしを支えることがイメージできるような内容を含むことが望ましい。職員間で話し合い、地域密着型サービスとしての意識を共有できる理念を作ることに期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の役員会に参加したり、地域推進会議に参加していただいている。親しくなった方に漬物講習会を開いてもらったり、お花見に誘ったりしている。	市民運動会では入居者の参加のために、地域のお年寄りと一緒に席を設けてくれる等、地域の支援が得られている。また地震体験の地域の研修にも入居者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人および当施設の勉強会を定期的に関き実践に向けた勉強会を開催している。地域の方も関心をもたれる方が多く、要望にこたえるべく、施設見学会・と説明会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年度は3回開催することができた。22年度は各月に開催、地域・家族様にも参加していただけるよう、呼びかけていきたい。	昨年度は3回開催した。今年度は2カ月に1回開催することを計画している。また多数の家族の参加が得られるように幸楽新聞でも呼び掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議には、市の職員の方に参加していただき、現在の状況や意見の交換をおこなっている。	運営推進会議では市の職員からの情報提供等が得られている。また市役所に出向いた時は担当者への挨拶を欠かさず、協力関係が築けるよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加し、当法人内の研修を行い、具体的にどういったことが、拘束にあたるか話し合い普段から行わないよう職員全員で気をつけている。	全職員が身体拘束の弊害について理解できるよう取り組まれており、普段から身体拘束は行っていない。内外部の研修会にも参加して、入居者の自由な生活を見守れるよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会でも繰り返しおこなっている。また、外部研修を受けてきた職員がチェックをおこなっている。入浴時は特に注意し体の変化・傷・痣・など、人型に記入し個人日報に貼りつけ、カンファレンスをおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族様がキーパーソンとして対応してくださっているので、現時点では、必要とおもわれる利用者さんがいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間をかけて、説明しているが、家族様にとって初めてのこともおまわれるので、折にふれ繰り返し説明するよう心がけている。改定時も、時間をとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ドライブに行きたい・買い物したい・散歩に行きたいなどの意見を取り入れて実行している。また家族様からの要望にも、出来ること、出来ないこと、をきちんと説明する。	入居者からの意見はなかなか聞けないが「～したい」という気持ちを引き出せるような話しかけを心がけている。家族会等の設置はなく個別の意見を聞くだけなので、家族同士の話し合いの場を設けたいと考えている。	グループホーム内の行事の時などに、家族同士で話し合う場を設け、家族からの意見を集め運営に活かせるよう、今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を設けている。夜勤・日勤引継ぎ時意見提案を聞く機会がある。必要と思われることに関しては、すぐに取り入れている。	主に毎月の会議で職員からの意見等を聞いている。また職員は気になる事が有るたびに管理者と話しあうようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や、資格一時金・誕生日には図書券がもらえる。処遇改善交付金を受けることにより研修を受け、職員の向上も期待できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修出席者は、交通費・時間外手当はもちろん、誕生日に図書券を贈呈。介護支援専門員・介護福祉士の試験勉強も施設内で、勉強会を開き、シフトも出席できるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者リーダー研修などに参加し情報交換をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いままでの延長として引き続き、好きなこと・得意なことを、継続して行えるよう支援していく。ここでの生活を穏やかに暮らしてもらえるよう、笑顔で接するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意向を充分にお聞きすると共に、初めてのことだとおもうので、専門用語は使わず、繰り返しお話する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活暦はもちろん、ご本人のここでの様子を24時間記録しできること、したいことを、見極め、カンファレンスをおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、季節感や、楽しいこと、うれしいことをできるだけ多く生活の中で感じてもらうようにします。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	幸楽新聞やケアプラン・時には電話で報告し、現在の状況をたえず報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・お友達が訪れていただいた時は飲み物などを供して自宅で迎える時のようにしている。施設内でお友達になったご家族様が見えた時は、ご挨拶されています。	昔通っていた小学校に行ったり、またドライブの途中で以前住んでいたところを通ったりしてこれまでの地域とのつながりが感じられるようにしている。希望にあわせてお墓参りにも行けるよう支援している。	入居者のこれまでの生活を尊重し、馴染みの場所に対しての支援がなされているが、さらに馴染みの人との継続的な交流が出来るような取り組みにも期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	親しくなった方が、お互いに部屋を訪問したり、乾いた洗濯物を届けたしている。一人になってしまった時は、職員が見守り支援を行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても、できるだけの協力をするために訪問しその後の体調に合った介護ができるよう、ご本人・家族様と、話し合っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が困難な場合は、日々の表情を汲み取り家族様との会話などから、確認するようにしている。	日々の関わりの中で声掛けをして思いを把握して支援しており、花が好きな人はベランダで栽培を楽しんでいる。意思の疎通が困難な場合も、表情で確認したり家族から聞いたりして本人本位のケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から永年培ってきた得意なこと、好きだったことを聞いて、ケアプランに取り入れ実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	危険や他の人の不愉快にならなければ、ゆったりと、好きなように過ごしていただいています。また落ち込んでいるときは、ゆっくり話を聞いたり、ただそばにいて、手をにぎっていることがあります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに添って日常生活が営まれ心身の変化にはスタッフ間の話し合いで介護方法を実行している。	日頃からの本人や家族からの声と、申し送りノートによる職員からの情報を集めて入居者の得意なこと等を知り、入居者の様子や訴えに合わせた個人毎のケアプランを作成し、定期的に評価も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し特に気になることがあれば、その人のみ継続して様子観察をする。打ち身・痣などは、人型に記入し、カンファレンスを行い、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人がご自宅に帰れないようなら、家族様に来所願ひ昼食を一緒にとっていただき、病院の受診も家族様の状況で、職員が同行することがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の行事となっている、幼稚園の訪問や、運動会に参加し地域の支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を、受診されたり、家族様が同行できない場合は、職員が、同行する場合があります。またご本人が、長時間の受診に耐えられないようなら、家族様と相談し往診に変更したりしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医との関係が継続できている。定期受診は家族にお願いしているが、病状把握のために職員が同行するときもある。緊急の場合は近くの橋本市民病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、法人内のナースに、処置をお願いしている。夜間の場合は処置だけでいいのか、緊急の受診が必要か判断が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も病院での状態や、家族様との連絡を密にし、ご本人にとって一番よい方法をソーシャルワーカーと検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前もって主治医・家族様と十分な話し合いを持つのはもちろん、状態に変化があった時は、その時々家族様に電話連絡をおこない、適切な対応をおこなっている。	可能な限りターミナル時も受け入れる方針であるが、職員はターミナル時の対応に不安をかかえており、研修等を希望している。	重度化に伴う意思確認を本人・家族・医師・職員等が連携をとって行い、安心して納得した最後を迎えられる様、多方面での支援を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを電話のそばに置てある。ガーゼ・心肺蘇生法の仕方を各居室に貼り付けてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議の時、市役所の方や地域の了解を得て、市防災担当TEL・地域消防団班長TELを連絡網に記載、災害無線や避難場所、食糧の協力ができるようにしている。	年2回防災訓練を行っている。市の防災担当や地域消防団班長・区長等の電話番号を緊急時の連絡簿に記載し災害無線や避難場所・食料の協力が出来るようにしている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しさのあまり、馴れ合いにならないよう会議のときなど議題にあげ見直しをするようにしている。	1人ひとりの入居者の気持ちを大切に考えてケアしている。声掛けや話し言葉にも気を付けて職員間で注意を促しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～してみませんか?・～どうですか?・など自己決定できるたずね方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の一連の流れはあるが、永年の生活習慣は、できる範囲で継続できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で更衣できる方は、自由に着替えることができ、介助の必要な方には、同じ洋服にならないよう配慮している。外出できる方は行きつけの美容院へ行かれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えると、同じ食材が重ならないように配慮し、旬の食材を多く使い季節感を出すよう工夫している。また盛り付けや、配膳、後片付けなど利用者さんと、一緒にしている。	昼食時はケアに支障がないよう食事作りの職員を採用している。食事は職員と共にし、自分で食事を取りに行く等出来ることはしている。献立は職員だけで決めている。	自分の食べたい献立と一緒に考え、また作る楽しみ・役割を持つことの大切さを考えながら、様々な取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調を考え、キザミ食・ミキサー食にも対応している。甘味料を変えたり、食事量・水分摂取量もチェックし夜間も枕元にポカリなど置いておくときがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方は見守り、その後、職員がガーゼやブラシで磨き残しのチェックをし、義歯の方は、毎食後義歯をはずしきれいにし、夜間に入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄リズムをつかみトイレでの排泄ができるよう支援している。ウオシュレットで陰部洗浄しホットタオルで拭くことで清潔を保ち、心地よさを感じてもらっているようにしている。	時間排泄や誘導等で排泄パターンを把握しながら支援している。またパットの大きさやリハビリパンツの種類など個々に合わせて対応している。排泄時の声掛けも自然に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより、個々のリズムをつかむだけでなく、散歩・牛乳・プルーン・寒天・さつま芋・水分などの工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合った、ゆず湯・しょうぶ湯にしたり、永年の習慣で入眠前に入浴で一日が終わると感じられるのであれば入浴・またはシャワー浴に入っている。	肌の乾燥等毎日入らない方がよいのではとの意見が出た為、現在入浴は隔日にして、午後から夜までいつでも入れるようにしている。入浴しない日も、着替えは毎日行い、清潔保持には気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン使用の乾燥回避に濡れタオルを置いたり、足浴で気持ちよく入眠できる工夫をしている。温かい飲み物やあんぱんを提供することがある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の名前や効能を薬箱に表記し毎回確認しながら、服用していただいている。顔色・バイタル・普段との違いなどをナースに報告、主治医相談をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サイホンでコーヒーを入れ他の利用者さんや職員にごちそうしてくださったり、草花の世話や、買い物で野菜を選んだり、時にはファミリーレストランに行くことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	墓参りに行きたい・お供えのお花がほしい・ご飯をお供えしたいなどの希望があります。天気のよい日は何となく戸外を散歩したり、3時のおやつを持って公園に行くことがあります。	畑の草ひき、買い物、散髪、外食、散歩等できるだけ外出できるように支援しているが、職員の人数の関係等で思うように出かけられないこともある。	「できるだけ多く外出の機会を持ってもらいたい」という職員の課題が解決できるように工夫し、今後外出の機会を多くもてるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと数千円単位のお金をお持ちです。週刊誌・お菓子など購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の電話番号を厚紙に書いていらしゃる方や、番号をなくされるので、事務所に貼ってある方がいます。また、遠方でいつもお手紙をくださる家族様には、ご本人が手紙を書かれたり、その中に写真を同封すること		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁に、写真やディスプレイをしたり、気持ちを落ち着かせるフィーリング音楽や、昔懐かしい童謡をかけたりしている。また、トイレは排泄臭がしないよう1日2回の掃除のほか便器が汚れたらすぐ掃除している。	温かな光が入って気持ちの良い空間となっている。また共用空間の和室には懐かしい筆筒が置かれ、家庭的な雰囲気である。カウンター式のキッチンでは職員と入居者が親しく話をする光景も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	マッサージ機やソファを置いて、心地よい空間作りを心掛けている。洗面所の前の畳の縁台のようなイスが、利用者さんのお気に入り場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やそれに近い家具を居室に配置し、以前から、愛用していた物を持参されている。家族様と一緒に写真を飾ったりして、安心して過ごしていただけるような、部屋作りを心掛けている。	机、筆筒、写真など個々の入居者の馴染みの物が持ちこまれていて、心地よく生活できるように配慮されている。仏壇のある部屋では年に2回僧侶による読経が行われ、他の入居者も同席している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が進み難しくなっている人もいるが、できることを進んでやることで、生きがいだと思ってもらい、職員も声に出して、感謝の気持ちを言う。		